

専門連語の構造

—形式面の量的構成を中心に—

小宮千鶴子

キーワード

専門語・連語・専門連語・日本語教育・経済

1. はじめに

専門語は専門教育をうけるうえで重要な語であるが、日本語で専門教育をうける留学生への専門語教育には問題が多い。その一つに専門語の使い方の指導の問題がある。専門語の使い方は、国語辞典にも専門語辞典にも記述がなく、その学習は留学生にとって切実な問題であるが、次のような理由から十分な指導が行われていない。①専門教育では、専門語の概念の指導が中心で、使い方の指導への関心が薄い。②日本語教師は専門語の使い方指導の必要性は認識しているものの、非専門家であるため指導は困難である。

専門語の使い方の指導について仁科（1997：66）は、「日本語教師は一般日本語での意味は理解しても、専門分野での用法を教えることはできない。」と述べている。確かに高度な専門語はもちろんのこと、基本的な専門語でさえ、専門分野での用法には日本語教師による指導の困難なものが多いが、一部には指導可能なものもある。

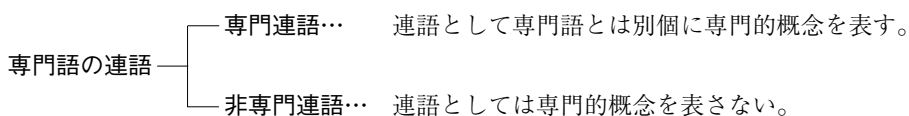
「音」を例にすると、「外で変な音がする。」は一般語の用法、「音が回折する。」「音は波だ。」は専門分野での用法である。専門分野での用法のうち前者は日本語教師による指導が困難だが、後者は可能である。それは「音は波だ。」の表す内容を日本語教師も高校卒業以上の日本語学習者も知識として知っており¹⁾、専門的説明の必要がないからである。指導可能な用法は少なくとも、専門語学習の初期から使い方を教える意義は大きい。

専門語の使い方の指導法として、小宮（1997, 2001, 2002b）は「専門連語」を提唱しているが、これは仁科（1997）のいう（専門語の）専門分野での用法に近いものと思われる。以下、「連語」、「専門連語」の順に述べる。

単語の使い方を示す方法に「連語」がある。連語とは、「二つ以上の単語が連なって、一まとまりの、単語にない複雑な意味をあらわすもの。」（『日本語文法大辞典』）とされる²⁾。「庭で桜を見る。」「桜を見る人が多い。」「桜を見ると、春を感じる。」の下線部が連語だが、文中での構文上の役割は異なっても、連語は常に一まとまりで使用される。

専門語を含む連語が「専門語の連語」で、専門語と一般語とから成るすべての連語をさす。専門語の連語は、「専門連語」と「非専門連語」とに分かれる。専門連語とは、「公定歩合を引き上げる」「公定歩合の水準」のように、連語として専門語とは別個に専門的概

念を表す連語のことである。それに対し、非専門連語とは、「公定歩合を考える」「公定歩合のカード」のように、専門語の連語であっても連語としては専門的概念を表さない連語のことである。



専門語の使い方の指導は、専門連語の形式で行うと表現力の養成につながり、効果的である。また、学習者が専門語学習の初期に専門連語という考え方を学べば、その後の学習にも専門連語の考え方を生かしていくことができると予想される。

具体的な専門連語の特定は、小宮（1997, 1999, 2001）において行われたが、専門連語が全体としてどのような連語から成るかについての報告はまだない。小論は、小宮（2001）の「経済の初期専門教育における専門連語」906種を資料に、専門連語全体の形式面の量的構成を明らかにすることを目的とする。

2. 資 料

資料には、小宮（2001）の「経済の初期専門教育における専門連語」906種を用いる。これは経済分野を学ぶ学部留学生のために選定した基本的専門語93語の専門連語で、動詞性の専門連語252種、名詞性の専門連語615種、形容詞（形容動詞も含む）性の専門連語39種から成る。

選定のもとにした「専門語の連語」は、高校政治経済教科書の重要語のうち『日本語能力試験出題基準』³⁾の1級の語彙にない専門語について新聞の経済記事と経済分野の概論教科書から収集した252語の専門語の5778種の連語である。そのうち15種以上の連語を作った93語の連語4890種につき、経済の専門家による判定を行い、最終的に906種を専門連語として選定した⁴⁾。

専門語の連語は、次の例のように、専門語を直接に修飾する語と専門語との組み合わせ、専門語と専門語が直接に修飾する語との組み合わせの両方を分けて収集した。動詞など活用のある語については、終止形を代表形とした。

例) A社は来年度の設備投資を1割削減した。

「来年度の設備投資」 「設備投資を削減する」

専門連語は「専門語の連語」に比べ、動詞性の連語が少なく、名詞性の連語が多かったが、形容詞性の連語については、ほとんど違いがなかった。詳細は小宮（2001）を参照。

表1 品詞性からみた「専門語の連語」と専門連語

連語の品詞性	専門語の連語	専門連語
動詞性の連語	2649 種 (45.8%)	252 種 (27.8%)
名詞性の連語	2830 種 (49.1%)	615 種 (67.9%)
形容詞性の連語	268 種 (4.6%)	39 種 (4.3%)
その他	31 種 (0.5%)	0
全 体	5778 種	906 種

3. 動詞性の専門連語

「経済の初期専門教育における専門連語」906種のうち動詞性の専門連語は、93語中67語の専門語について252種（27.8%）あった。専門連語の数は、専門語によって異なり、最多の「コスト」には19種あった一方、「市場経済」など21語には各1種しかなかったが、平均では1専門語あたり3.8種だった。動詞性の専門連語の数は、名詞性の専門連語の半分以下で、1専門語あたりの専門連語の数も少なかった。

3-1. 専門語と動詞との修飾関係

動詞性の専門連語252種を専門語と動詞との修飾関係によって分類すると、「カルテルを結ぶ」のように専門語が動詞を直接に修飾する「専門語修飾型」が246種（97.6%）と大半を占め、「低迷する世界経済」のように専門語が動詞に直接に修飾される「専門語被修飾型」は6種（2.4%）のみだった。

- | | | |
|-------------|-------|--------------------------------------|
| (1) 専門語修飾型 | 246 種 | <u>カルテル</u> を結ぶ, <u>多国籍企業</u> に支配される |
| (2) 専門語被修飾型 | 6 種 | 低迷する <u>世界経済</u> , 生産される <u>財</u> |

3-2. 専門語と動詞との結びつきの型

動詞性の専門連語252種を専門語と動詞との結びつきの型によって分類すると、専門語修飾型に9タイプ、専門語被修飾型に1タイプあり、全体で10タイプになった。最も多かったのは「専門語+が+動詞」112種（44.4%）で、次いで「専門語+を+動詞」99種（39.3%）、で、この上位2タイプで全体の8割を超えた⁵⁾。

(1) 専門語修飾型

- | | | |
|--------------|-------|-------------------------|
| ①専門語+が+動詞 | 112 種 | <u>コスト</u> が増加する |
| ②専門語+を+動詞 | 99 種 | 付加価値を生む |
| ③専門語+に+動詞 | 14 種 | <u>公正取引委員会</u> に申し立てる |
| ④専門語+から+動詞 | 7 種 | <u>所得税</u> から控除する |
| ⑤専門語+で+動詞 | 7 種 | <u>国債</u> で賄う |
| ⑥専門語+と+動詞 | 4 種 | <u>労働者</u> と対立する |
| ⑦専門語+によって+動詞 | 1 種 | <u>有効需要</u> によって決定される |
| ⑧専門語+に対して+動詞 | 1 種 | <u>公正取引委員会</u> に対して要請する |
| ⑨専門語+として+動詞 | 1 種 | <u>租税</u> として徴収される |

(2) 専門語被修飾型

- | | | |
|---------|-----|------------------------------------|
| ①動詞+専門語 | 6 種 | 低迷する <u>世界経済</u> , 生産される <u>財貨</u> |
|---------|-----|------------------------------------|

3-3. 動詞の語種と語構成

動詞性の専門連語252種を動詞の語種によって分類すると、「株券を売買する」のように混種語の動詞をとる専門連語が158種（62.7%）で最も多かった。残りは「コストが上がる」のように和語の動詞をとる専門連語で94種（37.3%）あった。漢語と外来語は、そのままでは動詞になれず「売買する」のようなサ変動詞となって混種語に含まれている。

動詞性の専門連語を動詞の語構成によって分類すると、「財政支出が増加する」のように合成語の動詞をとる専門連語が192種（76.2%）で全体の4分の3以上を占め、残りの4分の1弱が「コストが上がる」のように単純語の動詞をとる専門連語60種（23.8%）だった。合成語の動詞をとる専門連語の内訳は、複合動詞をとる専門連語が190種、派生動

詞をとる専門連語が2種で、ほとんどが複合動詞をとる専門連語だった。全体では、複合動詞をとる専門連語が4分の3以上を占め、次いで単純動詞をとる専門連語が4分の1弱で、派生動詞をとる専門連語は1%以下だった。複合動詞の構成要素の数は、「不安定化する」の四つが最大だったが、「増加する」のような構成要素が二つの動詞の数が最も多かった。

次に、動詞の語種と語構成による専門連語の分類を示す。②のみが単純語の動詞で、その他は合成語の動詞である。そのうち、①③④が複合動詞、⑤は派生動詞である。

①漢語サ変動詞をとる専門連語	154 種	財政支出が <u>増加する</u>
②和語の単純動詞をとる専門連語	60 種	<u>コスト</u> が上がる
③和語の複合動詞 ⁶⁾ をとる専門連語	32 種	公定歩合を <u>引き上げる</u>
④外来語サ変動詞をとる専門連語	4 種	<u>需要曲線</u> がシフトする
⑤和語の派生動詞をとる専門連語	2 種	<u>シェア</u> が高まる

漢語サ変動詞をとる専門連語が154種(61.1%)で全体の6割を超えた。専門的な文章における漢語の割合の高さは知られているが⁷⁾、ここではそれが漢語サ変動詞という混雑語の形で表われている。

3-4. 日本語能力試験との関係

動詞性の専門連語252種を、それを構成する動詞が一般的な日本語教育の目安である『日本語能力試験出題基準〔改訂版〕』⁸⁾(以下、『基準』と略す)の1級の語彙に含まれるか否かという観点から分類した。

判定の基準は、次のとおりである。その動詞が『基準』にあれば「1級の動詞」とする。「据え置く」のように単語としては『基準』にないが構成要素がいずれも『基準』にある動詞は、「構成要素がすべて1級の動詞」とする。『基準』にない単純語の動詞、および、構成要素の一部もしくはすべてが『基準』にない動詞は、「その他の動詞」とする。ただし、サ変動詞は、「する」に前接する構成要素が『基準』にあれば「1級の動詞」、なければ「その他の動詞」とする。

分類の結果、1級の動詞をとる専門連語が195種(77.4%)と8割近くを占め、構成要素がすべて1級の動詞をとる専門連語が21種(8.3%)、その他の動詞をとる専門連語が36種(14.3%)となった。

①1級の動詞をとる専門連語	195 種	<u>財貨</u> を <u>購入する</u>
②構成要素がすべて1級の動詞をとる専門連語	21 種	公定歩合を <u>据え置く</u>
③その他の動詞をとる専門連語	36 種	<u>自由貿易</u> を <u>堅持する</u>

動詞性の専門連語は、学習者にとって名詞性の専門連語よりも文法的に難しいと予想されるが、1級の動詞をとる専門連語が8割近くもあったことから、語彙的にはさほど難しくないといえる。構成要素がすべて1級の動詞をとる専門連語は、21種中18種が例のような和語の複合動詞をとった。また、その他の動詞をとる専門連語では、36種中28種が例のように漢語サ変動詞の固い表現だった。

3-5. 動詞性の専門連語によく使用された動詞

動詞性の専門連語252種に含まれた動詞は、延べ語数252語、異なり語数185語で、最もよく使用されたのは6種の専門連語に用いられた「減少する」だった。表2に2種以上の専門連語に使用された39語を示す。それらは延べ語数で全体の46%を占めた。残る

表2 2種以上の専門連語に用いられた動詞 39語

6種) 減少する 5種) 増加する 4種) 上がる, 悪化する, 購入する, 削減する, 生産する, 引き上げる, 引き下げる 3種) 拡大する, 控除する, 下げる, 上昇する, 始まる, 発行する, 販売する 2種) 上げる, アップする, 受け取る, 行う, 押し上げる*, 落ちる, 回復する, かかる, 活発化する, 激化する*, 決定する, 向上する, 下がる, 実施する, 据え置く*, 増減する, 徴収する, 低下する, 停滞する, 発動する*, 払う, 反映する, 増える

146語は1種の専門連語にしか使用されなかった。

表2の39語の動詞では、*を付した4語を除く35語が1級の動詞であり、3種以上の専門連語に使用された動詞はすべて1級の動詞であった。次に、3種以上の専門連語を作った16語の動詞について、専門連語を示す。

- 「減少する」 外貨準備高が～, 国内総生産が～, 国民所得が～, 国民総生産が～, 所得税が～, 設備投資が～
- 「増加する」 外貨準備高が～, コストが～, 財政支出が～, 設備投資が～, 有効需要が～
- 「上がる」 公定歩合が～, コストが～, シェアが～, 生産性が～
- 「悪化する」 国際収支が～, 経常収支を～させる, 貿易収支が～, 貿易収支を～させる
- 「購入する」 財貨を～, 財貨が～される, 消費者が～, 耐久消費財を～
- 「削減する」 コストを～, 財政支出を～, 設備投資を～, 有効需要が～される
- 「生産する」 財貨を～, ～財貨, ～される財貨, 耐久消費財を～
- 「引き上げる」 公定歩合を～, シェアを～, 消費税を～, 消費税が～られる
- 「引き下げる」 為替レートを～, 公定歩合を～, コストを～, 消費税が～られる
- 「拡大する」 国内総生産が～, 財政政策で～, シェアが～
- 「控除する」 所得税から～, 所得税を～, 租税を～
- 「下げる」 公定歩合を～, コストを～, 消費税を～
- 「上昇する」 シェアが～, 市場価格が～, 生産性が～
- 「始まる」 価格競争が～, 景気回復が～, 景気後退が～
- 「発行する」 赤字国債を～, 株券を～, 中央銀行が～
- 「販売する」 財貨を～, 市場価格で～, 耐久消費財を～

4. 名詞性の専門連語

「経済の初期専門教育における専門連語」906種のうち名詞性の専門連語は、93語中90語の専門語について615種(67.9%)あり、専門連語全体の主要な部分を占めていた。専門連語の種類数は、専門語により異なり、最多の「公共事業」と「所得税」にはそれぞれ23種あったのに対し、「カルテル」など10語は各1種のみで、平均では1専門語あたり6.8種だった。名詞性の専門連語は、多くの専門語に見られただけでなく、1専門語あたりの数も動詞性の専門連語の1.8倍と多かった。

名詞性の専門連語には、専門語と一般語の名詞とから成る専門連語のほかに、「公共事

業への投資」のように二つの専門語から成る専門連語も見られた。専門語の多くが名詞であるために生じることであるが、そのような場合も含めて「名詞」とする。

4-1. 専門語と名詞との修飾関係

名詞性の専門連語 615 種を専門語と名詞との修飾関係によって分類すると、「国民所得の水準」のように専門語が名詞を直接に修飾する「専門語修飾型」が 508 種 (82.6%)、「製品のコスト」のように専門語が名詞に直接に修飾される「専門語被修飾型」が 107 種 (17.4%) で、前者が後者を大きく上回った。

- | | | |
|-------------|-------|-------------------------------------|
| (1) 専門語修飾型 | 508 種 | <u>国民所得</u> の水準, <u>租税</u> の徴収 |
| (2) 専門語被修飾型 | 107 種 | 製品の <u>コスト</u> , 市場における <u>供給曲線</u> |

専門語修飾型の割合は 82.6% で、動詞性の専門連語の 97.6% と比べると低い、それでも専門語被修飾型の 4 倍以上あった。

4-2. 専門語と名詞との結びつきの型

名詞性の専門連語 615 種を専門語と名詞との結びつきの型によって分類すると、専門語修飾型に 16 タイプ、専門語被修飾型に 11 タイプあり、全体で 27 タイプになった。最も多かったのは「専門語+の+名詞」403 種 (65.5%)、次いで「名詞+の+専門語」78 種 (12.7%) で、いずれも専門語と名詞とが助詞「の」を介して結びつく連語であった。両方で全体の 8 割近くを占めた。

(1) 専門語修飾型

- | | | |
|--------------|-------|--|
| ①専門語+の+名詞 | 403 種 | <u>公開市場操作</u> の効果 |
| ②専門語+による+名詞 | 20 種 | 技術革新による <u>コストダウン</u> |
| ③専門語+など+名詞 | 16 種 | <u>減価償却費</u> など固定費 |
| ④専門語+などの+名詞 | 15 種 | 技術革新などの <u>外的環境要因</u> |
| ⑤専門語+が+名詞+だ | 14 種 | <u>需要曲線</u> が右下がりだ |
| ⑥専門語+への+名詞 | 10 種 | 経済成長への <u>影響</u> |
| ⑦専門語+との+名詞 | 8 種 | <u>需要曲線</u> との <u>交点</u> ⁹⁾ |
| ⑧専門語+のための+名詞 | 7 種 | 景気対策のための <u>減税</u> |
| ⑨専門語+としての+名詞 | 5 種 | 景気対策としての <u>政策減税</u> |
| ⑩専門語+からの+名詞 | 3 種 | 発展途上国からの <u>輸入</u> |
| ⑪専門語+での+名詞 | 2 種 | <u>短期金融市場</u> での <u>金利</u> |
| ⑫専門語+で+名詞+だ | 1 種 | 価格競争で <u>減収減益</u> だ |
| ⑬専門語+に関する+名詞 | 1 種 | <u>経済活動</u> に関する <u>公的規制</u> |
| ⑭専門語+といった+名詞 | 1 種 | 高度経済成長といった <u>経済的</u> 要因 |
| ⑮専門語+等の+名詞 | 1 種 | <u>カルテル</u> 等の <u>独占禁止法違反行為</u> |
| ⑯専門語+に対する+名詞 | 1 種 | <u>設備投資</u> に対する <u>融資</u> |

(2) 専門語被修飾型

- | | | |
|--------------|------|------------------------|
| ①名詞+の+専門語 | 78 種 | マイナスの <u>経済成長</u> |
| ②名詞+などの+専門語 | 8 種 | 自動車などの <u>耐久消費財</u> |
| ③名詞+における+専門語 | 6 種 | 卸売り段階における <u>生産性</u> |
| ④名詞+による+専門語 | 4 種 | 市場価格による <u>国民所得</u> |
| ⑤名詞+という+専門語 | 2 種 | 経営者対従業員という <u>労使関係</u> |

⑥名詞＋としての＋専門語	2種	財源としての赤字国債
⑦名詞＋に対する＋専門語	2種	財に対する有効需要
⑧名詞＋のための＋専門語	2種	景気回復のための財政投融资
⑨名詞＋である＋専門語	1種	1ドル＝125円62銭である為替レート
⑩名詞＋との＋専門語	1種	欧米諸国との貿易摩擦
⑪名詞＋にわたる＋専門語	1種	長期にわたる供給曲線

4-3. 名詞の語種と語構成

名詞性の専門連語615種を名詞の語種によって分類すると、「株主の権利」のように漢語の名詞をとる専門連語が491種（79.8%）とほぼ8割を占め、次いで「国内総生産の伸び率」のように混種語の名詞をとる専門連語が68種（11.1%）、「景気変動の波」のように和語の名詞をとる専門連語が42種（6.8%）、「マイナスの経済成長」のように外来語の名詞をとる専門連語が14種（2.3%）の順だった。

名詞性の専門連語615種を名詞の語構成によって分類すると、「中小企業の雇用環境」のような合成語の名詞をとる専門連語が352種（57.2%）、「租税の種類」のような単純語の名詞をとる専門連語が263種（42.8%）で、前者が後者を上回った。次に、専門連語を名詞の構成要素の数によって分類した。

名詞の語構成の分類は、石井（1997）を参考に次の基準に従った。漢語については、二字漢語をもって一つの構成要素とし、一字漢語は他の構成要素と結合する場合に限って構成要素と認める。複合動詞の連用形の名詞は、全体を一つの構成要素とする。本来並列の構造にある要素どうしが結合した「投融资」「生損保」などは、全体を一つの構成要素とする。数字・英文字・記号については、一文字を一つの語構成要素とする。ただし、これらが連続した場合は、それ全体を一つの構成要素とする。

分類の結果は、次のとおりである。（ ）内に内訳を示す。

- ①構成要素が一つの名詞をとる専門連語 263種（漢225, 和26, 外12）
バブル経済の影響, 国民総生産の伸び, マイナスの経済成長
- ②構成要素が二つの名詞をとる専門連語 240種（漢191, 混32, 和15, 外2）
民間企業の経営／者, 国際収支の赤／字, 公共事業の前／倒し
- ③構成要素が三つの名詞をとる専門連語 78種（漢57, 混20, 和1）
技術革新による大量／生産／効果, 公定歩合の再／利／下げ
- ④構成要素が四つの名詞をとる専門連語 21種（混12, 漢9）
株主の経営／チェック／機能／強化, 労働者の年間／総／労働／時間
- ⑤構成要素が五つの名詞をとる専門連語 8種（漢6, 混2）
日本銀行の企業／短期／経済／観測／調査
- ⑥構成要素が六つの名詞をとる専門連語 4種（漢2, 混2）
資本／家／対／賃金／労働／者という労使関係
- ⑦構成要素が七つの名詞をとる専門連語 1種（漢1）
公正取引委員会の独占／禁止／法／国際／問題／研究／会

全体としては、構成要素数が少ない名詞をとる専門連語ほど数が多かった。構成要素数が一つの名詞をとる専門連語と二つの名詞をとる専門連語とを合わせると、全体の8割を超えた。漢語は構成要素が三つまでの名詞に多かった。

4-4. 日本語能力試験との関係

名詞性の専門連語 615 種を、用いられた名詞が日本語能力 1 級の語彙に含まれるか否かという観点から分類した。判定の基準は、次のとおりである。その名詞が『基準』にあれば「1 級の名詞」とする。「共通／農業／政策」のように構成要素がすべて『基準』にあるが単語としては『基準』にない名詞は、「構成要素がすべて 1 級の名詞」とする。『基準』にない単純語の名詞、および、構成要素の一部もしくはすべてが『基準』にない名詞は、「その他の名詞」とする。動詞の連用形の名詞は、『基準』では別語とするが、掲載語数が少ないため、動詞の終止形が『基準』にあれば、1 級の名詞とする。複合動詞の連用形の場合も同様に扱う。「大きさ」は『基準』に掲載されていないが、1 級の名詞とする。

分類の結果、1 級の名詞をとる専門連語、構成要素が 1 級の名詞をとる専門連語、その他の名詞をとる専門連語が、それぞれほぼ等分に 3 分の 1 ずつとなった。

- ① 1 級の名詞をとる専門連語 204 種 (33.2%)
 景気回復の遅れ, 大量生産の法則, コストの比較
 ② 構成要素が 1 級の名詞をとる専門連語 213 種 (34.6%)
 簡易保険の商品内容, 金融機関の自己責任原則
 ③ その他の名詞をとる専門連語 198 種 (32.2%)
 国債の償還, 年金などの振替所得, 設備投資の下方修正

動詞性の専門連語では 1 級の動詞をとる専門連語が 8 割に近かったのに対し、名詞性の専門連語では 1 級の名詞をとる専門連語が 33.2 % しかなかった。名詞性の専門連語は、文法的には易しいが、語彙的には学習が難しいと予想される。

4-5. 名詞性の専門連語によく使用された名詞

名詞性の専門連語 615 種に含まれた名詞は、延べ語数 615 語、異なり語数 513 語だった。そのうち最もよく使用されたのは「日本」で、9 種の専門連語に用いられた。表 3 は、2 種以上の専門連語に使用された 60 語で、それらは延べ語数の 26.3 % を占めた。残る 453 語は、1 種の専門連語にのみ使用された。表 3 には「投資」「金融政策」などの専門語も見られる。

表 3 2 種以上の専門連語に用いられた名詞 60 語

9 種) 日本 5 種) 財源, 増加, 見直し 4 種) 影響, 均衡, 減税*, 効果, 推移*, 3 種) 拡大, 経営者*, 減少, 削減, 市場, 社会保障負担*, 所得税減税*, 水準, 増税*, 投資, 引き上げ, 比率, 変動, 融資 2 種) 赤字, 悪化, 大きさ, 回復, 金融政策*, 金利*, 黒字, 経営活動*, 景気回復*, 現在, 権利, 公定歩合引き下げ*, 公的資金*, 交点*, 購買, コストダウン*, 最適供給*, 資金, 社会保障費*, 主体, 受注額*, 税率*, 戦後*, 増大, 直接交換*, 直接税*, 動向, 内需拡大*, 日本経済*, 伸び, 伸び悩み*, 発行, 負担割合*, 変化, 役割, 有効性*, 利下げ*

表 3 の 60 語の名詞では、* を付した 27 語を除く 33 語が 1 級の名詞である。表 2 の動詞の場合とは異なって、* のある語の割合が高く、1 級の語のみから成るのは 5 種以上の専門連語に用いられた 4 語しかない。ここにも名詞性の専門連語の語彙的な難しさが表われている。次に、4 種以上の専門連語に使用された名詞について専門連語を示す。

「日本」	～のGDP, ～のODA, ～の高度成長, ～の <u>国民総生産</u> , ～の <u>財政政策</u> , ～の <u>産業構造</u> , ～の <u>政府開発援助</u> , ～の <u>民間企業</u> , ～の <u>労働力</u>
「財源」	<u>歳出</u> の～, <u>財政支出</u> の～, <u>財政投融资</u> の～, <u>設備投資</u> などの～, ～としての <u>赤字国債</u>
「増加」	<u>外貨準備高</u> の～, <u>国民総生産</u> の～, <u>財政支出</u> の～, <u>有効需要</u> の～, <u>労働者</u> の～
「見直し」	<u>コスト</u> の～, <u>歳出</u> の～, <u>財政投融资</u> の～, <u>消費税</u> の～, <u>直接税</u> の～
「影響」	<u>バブル経済</u> の～, <u>下請け</u> への～, <u>経済成長</u> への～, <u>石油危機</u> の～
「均衡」	<u>経常収支</u> の～, <u>国際収支</u> の～, <u>国民所得</u> の～, <u>貿易収支</u> の～
「減税」	<u>景気対策</u> のための～, <u>所得税</u> での～, <u>所得税</u> の～, <u>法人税</u> の～
「効果」	<u>景気対策</u> の～, <u>公開市場操作</u> の～, <u>財政支出</u> の～, <u>財政政策</u> の～
「推移」	<u>GDP</u> の～, <u>為替レート</u> の～, <u>経済成長率</u> の～, <u>公定歩合</u> の～

4-6. 動詞性の専門連語と名詞性の専門連語の対応

動詞性の専門連語と名詞性の専門連語の中には、「価格競争が激化する」と「価格競争の激化」のように対応のある専門連語が34組あった。その内訳は、動詞性の専門連語が36種、名詞性の専門連語が34種で、それぞれ動詞性の専門連語の14.3%、名詞性の専門連語の5.5%であった。

36種の動詞性の専門連語の内訳は、29種が漢語サ変動詞をとる専門連語、4種が「引き上げる」などの和語の複合動詞をとる専門連語、1種が和語の単純動詞をとる専門連語だった。漢語サ変動詞と和語の複合動詞は、ともに対応する名詞をとりやすい語であり¹⁰⁾、それが専門連語にも表われたといえよう。

「赤字国債の発行」のように、漢語サ変動詞をとる専門連語と対応する可能性のある、漢語名詞をとる専門連語は、「発行」のような構成要素が一つ（単純語）の名詞をとる専門連語に多く、単純語の漢語をとる専門連語225種中107種が該当した。それに対し、構成要素が二つ以上の漢語名詞は、「技術革新の加速化」「世界経済の再構築」など派生語をとる3例以外は漢語サ変動詞をとる専門連語が作れず¹¹⁾、動詞性の専門連語と対応する可能性はなかった。次に、動詞性と名詞性の専門連語で対応のあったものを示す¹²⁾。

○赤字国債を発行する／～の発行 ○価格競争が激化する／～の激化 ○外貨準備高が減少する／～の減少 ○外貨準備高が増加する／～の増加 ○金融政策を発動する／～の発動 ○景気回復が遅れる／～の遅れ ○景気対策が実施される／～の実施 ○公共事業を受注する／～の受注 ○公正取引委員会に申し立てる／～への申し立て ○公定歩合を操作する／～の操作 ○公定歩合を引き上げる／～の引き上げ ○公定歩合を引き下げる／～の引き下げ ○国際収支が悪化する／～の悪化 ○国民所得が均衡する／～の均衡 ○国民所得が減少する／～の減少 ○国民所得が変動する／～の変動 ○財貨を交換する／～の交換 ○財貨を購入する、～が購入される／～の購入 ○財貨を生産する／～の生産 ○財貨が取引される／～の取引 ○財政支出が増加する／～の増加 ○財政支出を削減する／～の削減 ○所得税を減税する／～の減税 ○消費者が行動する／～の行動 ○消費者が購買する／～の購買 ○消費者が選択する／～の選択 ○消費税を導入する／～の導入 ○消費税を引き上げる、～が引き上げられる／～の引き上

げ ○生産性が向上する／～の向上 ○バブル経済が崩壊する／～の崩壊 ○発展途上国から輸入する／～からの輸入 ○貿易収支が悪化する／～の悪化 ○貿易収支を改善させる／～の改善 ○有効需要が増加する／～の増加

5. 形容詞性の専門連語

「経済の初期専門教育における専門連語」906種のうち形容詞性の専門連語は、23語の専門語について39種あったが、これは全体の5%以下で専門連語全体に占める割合は小さかった。形容詞性の専門連語の種類は専門語により異なり、「コスト」が5種で最多で、それを含めて2種以上の専門連語があった専門語は11語あり、残る12語の専門語の専門連語は各1種だった。平均では、1専門語あたり1.7種の専門連語があったが、これは動詞性、名詞性、形容詞性の専門連語の中で最も少なかった。

形容詞性の専門連語には、イ形容詞との専門連語とナ形容詞との専門連語とがあったが、その内訳は、イ形容詞との専門連語が18種、ナ形容詞との専門連語が21種で、ナ形容詞との専門連語の方がやや多かった。

5-1. 専門語と形容詞との修飾関係

形容詞性の専門連語39種を専門語と形容詞との修飾関係によって分類すると、「コストが高い」のように専門語が形容詞を直接に修飾する「専門語修飾型」が19種(48.7%)、「高い経済成長率」のように専門語が形容詞に直接に修飾される「専門語被修飾型」が20種(51.3%)で、後者が前者をわずかに上回った。

(1) 専門語修飾型 19種 コストが高い、金融市場が閉鎖的だ

(2) 専門語被修飾型 20種 高い経済成長率、積極的な財政政策

動詞性の専門連語、名詞性の専門連語と比べると、形容詞性の専門連語は、専門語被修飾型の方が多いことに特徴があった¹³⁾。

5-2. 専門語と形容詞との結びつきの型

形容詞性の専門連語39種を専門語と形容詞との結びつきの型によって分類すると、専門語修飾型に2タイプ、専門語被修飾型に1タイプで、全体で3タイプあった。そのうち「形容詞+専門語」が20種、「専門語+が+形容詞」が18種で、1種を除くすべての専門連語がいずれかに属した。

(1) 専門語修飾型

①専門語+が+形容詞 18種 コストが低い、財政政策が拡張的だ

②専門語+より+形容詞 1種 市場価格より安い

(2) 専門語被修飾型

①形容詞+専門語 20種 巨大な多国籍企業、新しい財貨

形容詞性の専門連語は、動詞性の専門連語や名詞性の専門連語と比べると、専門語と形容詞との結びつきの型が少なく、2タイプにほぼ等分された。

5-3. 形容詞の語種と語構成

形容詞性の専門連語39種を形容詞の語種によって分類すると、漢語の形容詞をとる専門連語が21種(53.8%)、和語の形容詞をとる専門連語が18種(46.2%)で、前者が後者を上回ったが、両者の差は小さかった。外来語と混種語の形容詞をとる専門連語はなかつ

た。

①漢語の形容詞をとる専門連語 21 種 積極的な財政政策, 労使関係が複雑だ

②和語の形容詞をとる専門連語 18 種 安い労働力, 付加価値が高い

形容詞性の専門連語 39 種を形容詞の語構成によって分類すると、単純語の形容詞をとる専門連語が 27 種 (69.2%) とほぼ 7 割を占め、合成語の形容詞をとる専門連語は 12 種 (30.8%) のみだった。合成語をとる専門連語の内訳は、構成要素が二つの形容詞をとる専門連語が 11 種、構成要素が三つの形容詞をとる専門連語が 1 種だった。形容詞性の専門連語に使用された形容詞は、単純語が中心で、語構成はあまり複雑ではなかった。

①構成要素が一つ (単純語) の形容詞をとる専門連語 27 種

市場価格が高い, 適正なコスト

②構成要素が二つの形容詞をとる専門連語 11 種

手／堅い財政政策, 積極／的な景気対策

③構成要素が三つの形容詞をとる専門連語 1 種

需要曲線が非／弾力／的だ

5-4. 日本語能力試験との関係

形容詞性の専門連語 39 種を、使用された形容詞が日本語能力試験 1 級の語彙に含まれるか否かという観点から分類した。

判定の基準は、次のとおりである。そのイ形容詞またはナ形容詞の語幹が『基準』にあれば「1 級の形容詞」とする。「手堅い」のように単語としては『基準』にないが構成要素がすべて『基準』にある形容詞は、「構成要素がすべて 1 級の形容詞」とする¹⁴⁾。『基準』にない単純語の形容詞、および、構成要素の一部もしくはすべてが『基準』にない形容詞は、「その他の形容詞」とする。

分類の結果は、1 級の形容詞をとる専門連語が 25 種 (64.1%) と全体の 3 分の 2 に近く、構成要素がすべて 1 級の形容詞をとる専門連語は 9 種 (23.1%)、その他の形容詞をとる専門連語は 5 種 (12.8%) だった。

① 1 級の形容詞をとる専門連語 25 種 (64.1%)

新しい財貨, 労使関係が複雑だ, 積極的な景気対策

②構成要素がすべて 1 級の形容詞をとる専門連語 9 種 (23.1%)

手堅い財政政策, 基本的な金融政策, 需要曲線が非弾力的だ

③その他の形容詞をとる専門連語 5 種 (12.8%)

適正なコスト, 人為的な景気後退, 過激な価格競争

形容詞性の専門連語は、数が少なく文法的にも易しいうえに 1 級の形容詞をとる専門連語の割合も高いので、学習者にとっては学習しやすいと予想される。

5-5. 形容詞性の専門連語によく使われた形容詞

形容詞性の専門連語 39 種に含まれた形容詞は、延べ語数 39 語、異なり語数 27 語 (イ形容詞 8 語、ナ形容詞 19 語) だった。そのうち最もよく使用されたのは「高い」で、8 種の専門連語に用いられた。次いで、「低い」が 3 種、「積極的」「適正だ」「安い」がそれぞれ 2 種に用いられた。残りの 22 語 (イ形容詞 5 語、ナ形容詞 17 語) は、1 種にのみ使用された。2 種以上の専門連語に使用された形容詞とそれを含む専門連語を次に挙げる。

「高い」	<u>コストが～</u> 、 <u>経済成長率が～</u> 、 <u>市場価格が～</u> 、 <u>生産性が～</u> 、 <u>付加価値が～</u> 、 <u>～コスト</u> 、 <u>～経済成長</u> 、 <u>～経済成長率</u>
「低い」	<u>コストが～</u> 、 <u>公定歩合が～</u> 、 <u>生産性が～</u>
「積極的だ」	<u>～景気対策</u> 、 <u>～財政政策</u>
「適正だ」	<u>コストが～</u> 、 <u>～コスト</u>
「安い」	<u>～労働力</u> 、 <u>市場価格より～</u>

イ形容詞は、異なり語数は少ないものの繰り返し用いられる語が多く、ナ形容詞は、その反対に、異なり語数は多いものの繰り返し用いられる語が少なかった¹⁵⁾。

6. ま と め

小論では、専門語の使い方の指導に効果的と思われる専門連語について、小宮（2001）の「経済の初期専門教育における専門連語」906種を資料に、専門連語の形式面の量的構成を調査した。表4はその主な点をまとめたものである。

専門連語は専門語と組み合わせる一般語の品詞性から、動詞性の専門連語、名詞性の専門連語、形容詞性の専門連語の三つに分けられたが、最も多かったのは名詞性の専門連語で、全体の7割近くを占めた。動詞性の専門連語は3割近くあり、形容詞性の専門連語は5%以下だった。

動詞性の専門連語は、専門語が主語や目的語として漢語サ変動詞などと結びつく型が多かった。1級の動詞をとる割合が8割近くあり、語彙的には比較的易しいと思われる。15%近くの動詞性の専門連語が漢語サ変動詞や和語複合動詞をとって名詞性の専門連語と対応関係をもっており、その対応を生かした指導が期待される。

名詞性の専門連語は、助詞「の」を介して専門語と漢語の名詞とが結びつく型が多かった。1級の名詞をとる割合は全体の3分の1程度にとどまり、語彙的には難しいと思われる。動詞性の専門連語と対応する名詞性の専門連語は6%程度で、名詞性の専門連語から見ると、その割合はあまり高くなかった。

形容詞性の専門連語は全体の5%以下で、他の専門連語とは異なり、専門語が一般語に修飾される型が多かった。また、一般語に和語の単純語をとる専門連語の割合が最も高かったのも他の専門連語とは異なる特徴であった。数も少なく、1級の形容詞をとる専門連語も比較的が多いので、学習は易しいと思われる。

表4 専門連語の形式面の量的構成

	動詞性の専門連語	名詞性の専門連語	形容詞性の専門連語
専門連語の数	252 種 (27.8%)	615 種 (67.9%)	39 種 (4.3%)
専門語の数 (93 語中)	67 語	90 語	23 語
1 語あたりの専門連語数	3.8 種 / 語	6.8 種 / 語	1.7 種 / 語
主な修飾関係	専門語修飾型 (97.6%)	専門語修飾型 (82.6%)	専門語被修飾型 (51.3%)
専門連語の型の数	10 タイプ	27 タイプ	3 タイプ
主な専門連語の型	専門語＋が＋動詞 (44.4%) 専門語＋を＋動詞 (39.3%)	専門語＋の＋名詞 (65.5%) 名詞＋の＋専門語 (12.7%)	形容詞＋専門語 (51.3%) 専門語＋が＋形容詞 (46.2%)
一般語の主な語種	混種語 (62.7%)	漢語 (79.8%)	漢語 (53.8%)
一般語の主な語構成	合成語 (76.2%)	合成語 (57.2%)	単純語 (69.2%)
主な一般語	漢語サ変動詞 (61.1%)	漢語の単純語 (36.6%)	和語の単純語 (43.6%)
1 級の語をとる専門連語	77.4%	33.2%	64.1%
動詞性と名詞性の対応	14.3%	5.5%	

小論では専門連語の形式面の量的構成について報告したが、「公定歩合／シェア／消費税を引き上げる」のような専門連語内の専門語と動詞との意味関係や、「コストの削減」「コストの軽減」のような類義の専門連語の問題、名詞性の専門連語における名詞の意味分類などについては、触れることができなかった。すべて今後の課題としたい。

(注)

- 1) 宮島達夫氏は、国立国語研究所（1981：4）において、専門文献を読む場合でも専門語辞典で説明しているような知識が必ずしも必要なわけではないと述べているが、「音は波だ。」の知識としての理解にも、「音」の厳密な定義は必ずしも必要ないように思われる。
- 2) 『日本語文法大辞典』のこの定義では助詞や助動詞を単語と認めているが、小論では鈴木（1972）にならない、単語とは自立語をさすと考ええる。ただし、鈴木（1972）とは異なり、「主述関係」も連語に含める。
- 3) 『日本語能力試験出題基準』は1994年に初版が出版され、2002年に改訂版の『日本能力試験出題基準〔改訂版〕』が出された。ここでは小宮（2001）で使用した旧版に従っているが、改訂版には小論にかかわる部分での変更はない。
- 4) 906種の専門連語の出典の内訳は、概論教科書からの専門連語が326種、新聞からの専門連語が618種である。概論教科書からの専門連語のリストは、小宮（2001）を参照のこと。
- 5) 秋元（1993）は、一般語の連語（小論とは異なる定義「傘をさす」など）では動詞の連語が最も多く、中でも「動詞＋を＋名詞」の連語が多いと報告している。
- 6) 和語の複合動詞は、「引き上げる」のような「動詞＋動詞」が28例、「底入れする」のような「複合名詞＋する」が4例あった。
- 7) 国立国語研究所（1983）『高校教科書の語彙調査』（秀英出版）を参照のこと。
- 8) 注3を参照のこと。
- 9) 用例は「需要曲線と供給曲線との交点」であったが、専門語と専門語が直接に修飾する語とを連語として採集するという基準に従ったため、不自然な取り方になった。
- 10) 西尾（1961）は漢語は名詞から漢語サ変動詞が形成されるのに対し、和語は動詞から連用形名詞が形成されるとしている。

- 11) 「赤字国債による大型所得税減税」のような臨時一語は除いた。
- 12) 「低迷する世界経済／～の低迷」「停滞する世界経済／～の停滞」は、除いた。
- 13) 秋元（1996）は、程度名詞と形容詞との連語において述定用法（小論の専門語修飾型）の方がはるかに多いと報告している。
- 14) 「～的」「積極的」が『基準』にあり、後者は「1級の形容詞」とした。
- 15) 村岡他（1995：84）は、農学系学術雑誌の語彙調査において、イ形容詞の異なり語数が32に対し、ナ形容詞の異なり語数が150で、ナ形容詞の方が難解な漢字を含んだ語が多く、習得に時間が必要としている。

参考文献

- 秋元美晴（1993）「語彙教育における連語指導の意義について」“PROCEEDINGS OF THE 4TH CONFERENCE ON SECOND LANGUAGE RESEARCH IN JAPAN” 国際大学
- （1996）「程度名詞と形容詞の連語性」『日本語教育』102
- 石井正彦（1997）「専門用語の語構成—学術用語の組み立てに一般語の造語成分が活躍する—」『日本語学』16－2
- 国立国語研究所（1981）『専門語の諸問題』秀英出版
- 小宮千鶴子（1997）「専門日本語教育における専門連語の選定—経済記事の『基本的専門語』＋を＋動詞を例に一」『中央学院大学商経論叢』10-1
- 代表（1999）『専門的文章・談話の理解力・表現力向上のための「専門連語」辞書の作成』平成9～10年度科学研究費補助金研究成果報告書
- （2001）「経済の初期専門教育における専門連語」『専門日本語教育研究』3
- 代表（2002a）『経済を学ぶ留学生のための専門連語辞書の作成と利用法の開発』平成11～13年度科学研究費補助金研究成果報告書
- （2002b）「専門連語と専門連語辞書」『情報知識学会誌』12-1
- 鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』麦書房
- 西尾寅弥（1961）「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』43
- 仁科喜久子（1997）「日本語教育における専門用語の扱い」『日本語学』16-2
- 村岡貴子・柳智博（1995）「農学系学術雑誌の語彙調査—専門分野別日本語教育の観点から—」『日本語教育』85